

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 川合 俊一 所属: 狛江市立緑野小学校 記録日: 28年 2月 18日

キーワード: 読み書きの苦手な子どもの自立を目指した支援

『読み・書きの困難』『読み・書き』『作文の支援・ノートテイク・中学への移行支援』

【対象児の情報】

- ・学年 小学6年生 男児
- ・障害名 発達性ディスレクシア 広汎性発達障害
- ・障害と困難の内容
 - 書くことの困難さからノートをとることに時間を取られ、話を聞き逃すことがある。
 - 話をするのは得意だが、順序立てて話したり、整理して話をしたりすることに苦手さがある。
 - 短期的な記憶力はあるが、何を書くのか決めたり、まとめたりすることの時間がかかる。
 - 物の管理や見通しをもった行動に苦手さが見られる。

【活動目的】

- ・当初のねらい
 - ①自分の考えを文字に起こすことで思考を整理する。
 - ②板書におわれる時間を軽減し、考える時間を確保する。

*これらの活動を通じて、自分にとって学びやすさや取り組みやすさを知り、解決への意識を高める。
- ・実施期間 2015年4月から2016年3月
- ・実施者 川合 俊一
- ・実施者と対象児の関係 通級指導学級担当教員

【活動内容と対象児の変化】

- ・対象児の事前の状況

【保護者より】

- 読み書きに苦手さがある。
- 自宅でも音読の宿題を苦手にしていて、低学年程度の本でも大変そうである。

【児童本人より】

- 周りのペースで書くことが苦手、時間がかかる。
- 物の管理が苦手な宿題など忘れてしまうことがある。

【学級担任より】

- 一斉の学習の場での取り組みが消極的。
 - 記憶力がありテストなどは平均以上の点数が取れるが、感想など自分で考える活動では苦手さがある。
- 以上の聞き取りの結果や大学での検査結果から以下のような苦手さがわかった。

【大学での読み書きに関わる認知能力の検査より】

- 処理速度に落ち込みが他のものに比べて大きい。特に符号の極端な低さが目立つ。時間感覚に問題があり、素早い作業にも苦手さがある。
- 音韻処理能力が弱いということから読み書きの習得に苦手さがある。
- 単調な活動では飽きやすく、見通しをもつことが苦手なため集中力を維持することが難しい。という結果であった。

・活動の具体的内容

思考の整理【苦手な作文ができるように】

取り組み内容

使用アプリ・機器

- ・マインドマップを使い、思考を視覚化し、整理する方法を練習した。話したことを実施者がメモをしてマップにした。それを手掛かりにして思考を整理した。
- ・『自分でできる』を目指して Simple Mind+の使い方や概要について学習をした。運動会の感想文では、アプリの使い方がまだ定着していなかったことにより、本人と共にマインドマップを作りながらまとめた。作文は今までは原稿用紙に時間内にほとんど書くことができなかったが、繰り返し練習をしていく中で、用紙の半分以上を書くことができるようになった。

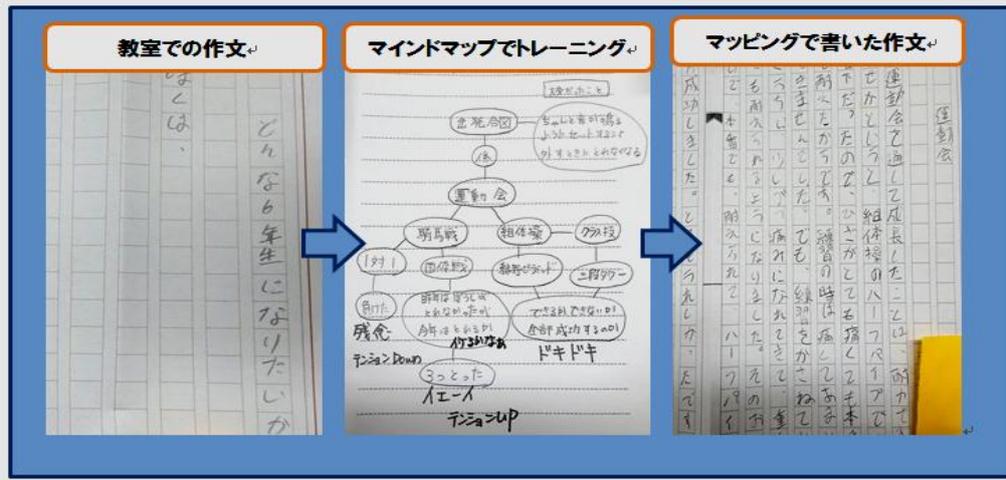
【Simple Mind+】



【カメラアプリ】



一学期の取り組み

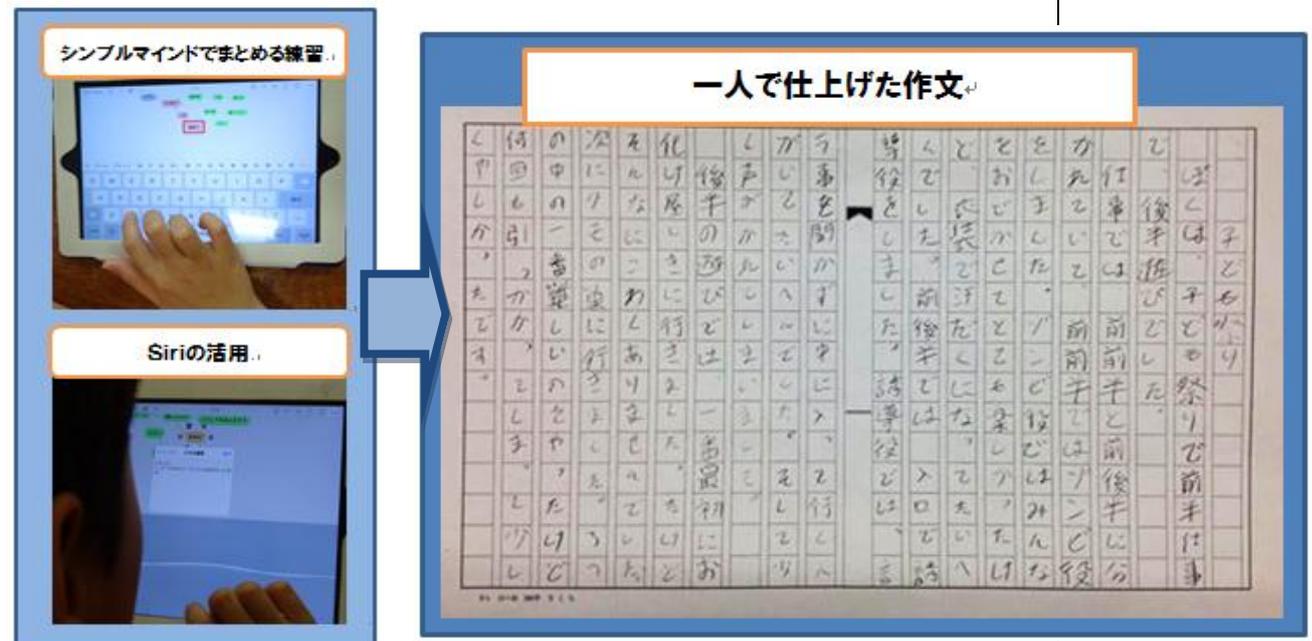


- ・Simple Mind+を使う練習を行った。音声入力やタイピング入力を試した。その結果、音声入力は認識がうまくいかず、修正することが面倒で使いづらいという感想だった。そのためタイピング入力による入力を主に通級学級で行った。
- ・1学期と比べると短い時間でマインドマップを仕上げるできるようになってきた。それに伴って本人より「やりやすい。時間内に書き終わる。」などの発言も見られるようになってきた。

【基本機能／音声入力／Siri】



二学期の取り組み

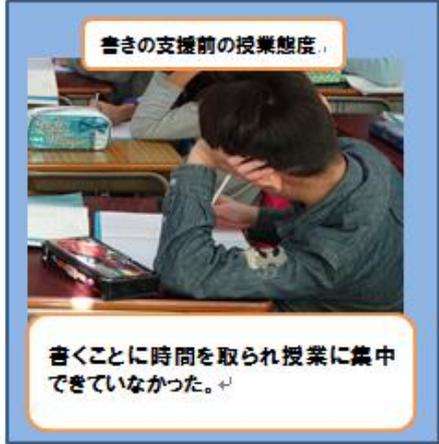


| | | |
|----------|--|--|
| 三学期の取り組み | <p>・Simple Mind+を継続的に行ってきた結果、教員に個別の声掛けや支援がなくても自分で作文を書き上げられるまでになった。6年生として通級してきたことを振り返って、作文にまとめる活動をしたところ1時間で作文を仕上げることができた。最後に本人も「できる。」実感が出てきた様子で「中学でも使用したい。」と作文に対するの苦手意識が少なくなってきた様子であった。</p> | <p>取り組んできたことの感想</p> <p>・提出物や感想など自分でできる工夫がわかってきて活用しようとする姿が見られるようになった。(担任)</p> <p>・「作文結構簡単!!」と感想を話していた。(本人)</p> |
|----------|--|--|

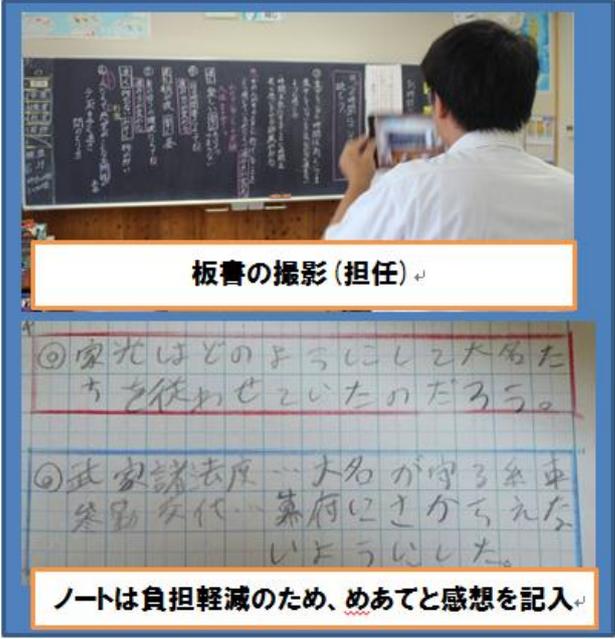


書きの軽減【思考する時間の確保】

| | 取り組み内容 | 使用アプリ・機器 |
|----------|--|---|
| 一学期の取り組み | <p>・1学期は書いたりする活動の際に横に寝そべてしまったりすることが多かった。通級でも「書くの大変。」ということが多かった。そのため、板書を写す負担を軽減するためにカメラアプリで板書を撮影することにした。また、撮影した写真を FileMaker というノートアプリを使用し記録していくことになった。</p> <p>※板書の負担が多い社会、国語の時間に教員が板書を撮影し、聞くことに集中できる環境を設定した。</p> | <p>【FileMaker Go】</p>  <p>【カメラアプリ】</p>  |

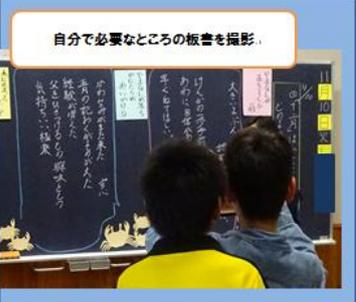
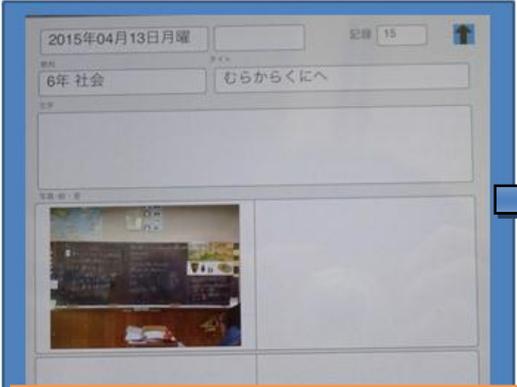
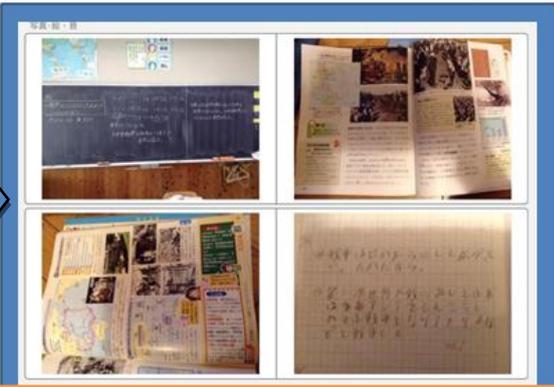


書くことに時間を取られ授業に集中できていなかった。



板書の撮影(担任)

ノートは負担軽減のため、めあてと感想を記入

| | | | |
|-----------------|---|---|---|
| <p>二学期の取り組み</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・活動に取り組む中で2学期の大きな変化としては、授業態度が改善されてきた。2学期は担任の話に耳を傾ける姿が多く見られ、通級では「授業が楽になった。」ということも増えてきた。 ・通級指導の際にまとめた物を確認することで意識の継続を促した。また、2学期より中学に向けて自分で管理し撮影するように段階的に行った。今後のことも考え、板書やノートだけでなく必要な情報を自分で取り込みまとめる練習を通級で確認、練習した。 |  <p>取り組み姿勢の変化。</p>  <p>自分で必要ところの板書を撮影。</p> | <p>【FileMaker Go】</p>  <p>【カメラアプリ】</p>  |
| <p>三学期の取り組み</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・3学期になり、中学での1年の流れがわかる資料を提示しながら、今後の取り組み方について話をした。まだ自分にとってのノートという感覚は少ないようだったが、中学の大変さがわかったようであった。その後ぐらいから、ただの『記録ノート』⇒『自分なりのまとめノート』へと変わってきている。 |  <p>1学期のまとめ方『記録ノート』</p>  <p>3学期のまとめ方『自分なりの記録ノート』</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・一学期は板書を撮影し、貼り付けているだけだったが、三学期になると、自然と自分のノートアプリに板書だけでなく、色々な資料を貼り付けるようになった。更に本人から「二学期のノートにも資料を足したんだ！」と報告を受けた。過去のノートを見直し、再度確認する様子が見られた。自分なりのまとめ方を獲得したことで、主体的に学ぼうとするようになったのではないかと推測する。 ・中学でも使用するために本人が自分の課題を捉え、なぜ必要なのかをきちんと伝えられるように話をしている。また、巡回指導が中学でも始まることから支援会議を充実させていくために、中学校の担任との話し合いを設ける。 |

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- 「書き写す」ことを軽減したことで授業中の考える時間を確保することができた。班活動などでの発言が増えたり、感想などを書いたりできるようになったのは、活動に安心して取り組めるようになったからではないか。
- 自分で管理したり資料を整理したりする活動を通して、自分に合ったまとめ方を知ったことによって自分で出来た経験をした。そのことが自分でもやってみようと思えるようになったのではないか。
- 自分の考えをマッピングとして表出し整理することにより今まで時間がかかっていた作文を書けるようになった。書ける分量が増えたことや書く時間が飛躍的に早くなり時間内に終わることで達成感をもてるようになったのではないか。

・エビデンス(具体的数値など)

- 以前は関心・意欲・態度の評価が C と低かったが、書き写す軽減を始めてからは B 評価に上がった。
- プリントなどを i Pad で一括管理することにより、忘れても i Pad を見ればいいという安心感を持てるようになってきた。
- 見返すことや管理する意識が向上してきたことにより、学級の連絡帳なども忘れずに書いている。
- 支援前は声をかけないと 1 行も書けないことがあり、担任が個別で声をかけていた。それでも半分も書けないことが多かったが、シンプルマインドを活用し思考を一度マインドマップに表出して整理することで、作文も書ける分量が増えた。思考を表出して整理する方法を覚えた後は、作文に対しての苦手意識も減り、取り組もうとする意欲が出てきた。

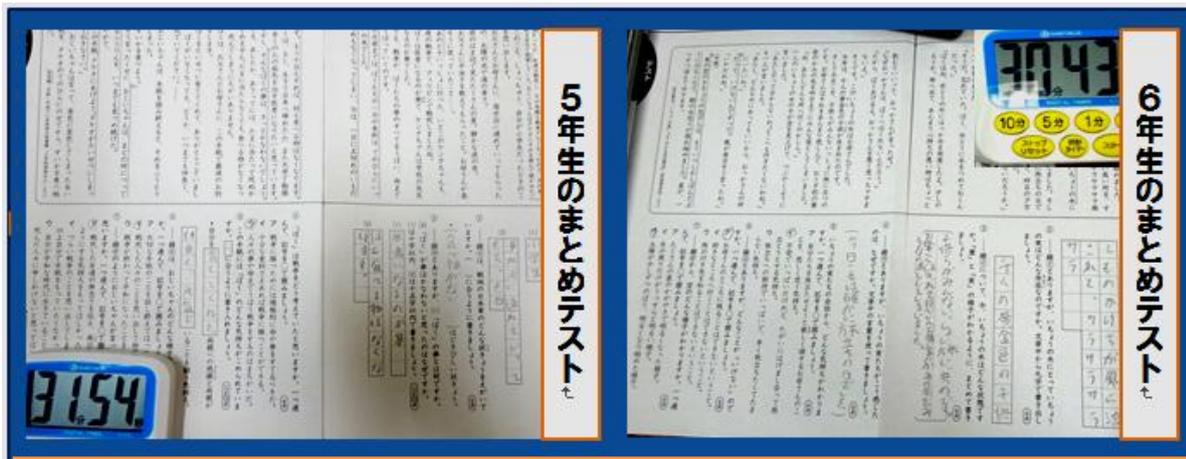
・その他エピソード(画像などを含めて)

- 3学期中学に向けて、読み上げの支援が、どの程度必要なのかを確認した。

まず通級でテストにかかる時間を計測したところ解くことはできるが、平均より10分程度時間が多くかかった。

読み上げの支援がなくても思考時間を確保することで解くことができた。

今後は読み上げ支援を行った場合と比較をして読み上げ支援がどの程度効果的なのか検証していく。



通常20分で行うテストで時間を気にせず解いたところ10分程度多くかかったがすべて回答した。

| 読解テスト【読み】 | 時間 | 正答数 |
|------------|------|-----|
| 5年生まとめのテスト | 約32分 | 6/7 |
| 6年生まとめのテスト | 約31分 | 6/7 |

【今後の見通し】

- 思考を整理する方法を身につけてきたことで学習に対する負担感は軽減できてきた。自分の苦手さを克服するための方法を自ら研究しながら、自分で生活をより良くする意欲を向上させていく。
- 進学する中学校に連絡・連携を取り合い、本人の苦手さを軽減できる支援が実践できるようにサポートをしていく。本人にも自分の課題を説明できるように更なる自己理解を進めていく。
- i Pad でプリントを管理してきたことにより物をなくしてしまう不安感が減り、安心して生活することができるようになってきた。今後は ToDo リストやスケジュール機能を活用できるようにして更なる自立を進めていきたい。